

令和 6 年度
千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会
報 告 書



千葉市教育委員会

目 次

はじめに	1
I 令和6年度 千葉市幼・保・小関連教育推進協議会の活動	2
II 千葉市幼・保・小関連教育推進協議会設置の経緯	4
III 実践報告	
【中央区】	
蘇我小学校ブロック	6
テーマ：幼・保・小の望ましい交流と連携を目指して ～職員同士、児童・年長児同士の相互理解を築くための取組～	
【花見川区】	
横戸小学校ブロック	8
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するために、今できること～	
【稲毛区】	
弥生小学校ブロック	10
テーマ：幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して ～子どもを中心に据えて今できることを～	
【若葉区】	
若松小学校ブロック	12
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～持続可能な交流活動を通して～	
【緑区】	
土気小学校ブロック	14
テーマ：幼・保・小の持続可能な交流と連携を目指して	
【美浜区】	
高浜海浜小学校ブロック	16
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい連携と交流を目指して ～子どもたちのウェルビーイングのために～	
IV 令和6年度 千葉市幼・保・小関連教育推進協議会の成果と課題	18
V 令和6年度 千葉市幼・保・小関連教育推進協議会委員一覧	20

は　　じ　　め　　に

千葉市教育委員会学校教育部
教育指導課長　　八斗　孝之

近年、子どもたちを取り巻く社会は急激に変化しており、幼稚園や保育所等の幼児教育を担う者と小学校教育を担う者とがそれぞれの課題を共有し、連携して子どもの育ちを支え、「生きる力」の基礎を育んでいくことはますます重要となっています。また、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続することで、子どもの発達や学びの連続性を保証することが求められています。

本市では、昭和 63 年から「幼・保・小関連教育推進協議会」を立ち上げ、推進指定校を中心とする幼・保・こ・小の連携や協力体制の整備を進め、子どもたちの実態に応じた様々な交流活動を展開することで、着実に成果を上げてきました。

本年度は、推進指定校を中心に、様々な交流活動が実施されました。市内12の推進指定校とそれぞれの小学校の近隣にある26の幼稚園や保育所・保育園、認定こども園と連携し、子ども同士の様々な交流活動や職員同士の参観・情報交換等、積極的な取組が報告されました。幼児教育と小学校教育との接続は、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達の段階を踏まえた教育活動を充実させることが重要です。各学校においては、本報告書にまとめられている実践を参考にし、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を視野に入れた教育課程の編成や、学びの特性を踏まえた指導計画の作成に取り組んでいただければ幸いです。今後も、本事業の推進が、子どもたちの健やかな成長に結び付くことを願っております。

結びに、本事業に御協力いただいた幼稚園、保育所・保育園、認定こども園、小学校の皆様、協議会委員の皆様に心より感謝申し上げます。

令和 7 年 3 月

I 令和6年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の活動

1 今年度の取組について

(1) 推進指定校・幼稚園・保育所等の数

- ・推進指定校 12校
- ・幼稚園 11施設 ・保育所 4施設 ・保育園 8施設 ・認定こども園 3施設

(2) 取組状況について

①各行政区のテーマ

番号	行政区	テーマ
1	中央	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～職員同士、児童・年長児同士の相互理解を築くために～
2	花見川	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するために、今できること～
3	稲毛	幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して ～子どもを中心に据えて今できることを～
4	若葉	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～持続可能な交流活動を通して～
5	緑	幼・保・こ・小の持続可能な交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するために、子供同士の交流を通して～
6	美浜	幼・保・こ・小の望ましい連携と交流を目指して ～子供たちのウェルビーイングのために～

②幼・保・こ・小関連教育推進協議会での主な協議内容

- ・幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要についての共通理解
- ・今年度の取組と実施計画について
- ・子供の交流活動の在り方について
- ・教職員の授業参観・合同研修会について
- ・幼・保・小連携の現状と課題について
- ・各校、各園の取組について
- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて
- ・情報交換

2 令和6年度 幼・保・こ・小関連教育推進校一覧及び協議会の実施

◎印は幹事校

行政区	小 学 校	幼稚園・保育所・認定こども園	協議会	交流等
	指定校名	参加園・所名	実施日	実施日
中 央 区	◎蘇我小 大森小	今井保育園 蘇我保育所 そが中央保育園 ローゼン蘇我保育園 九重幼稚園 白旗保育所 大森保育園	5/17 7/18	7/17 11/28 1/17
花 見 川 区	◎横戸小 犢橋小	こてはし台保育所 こてはし台幼稚園 まこと第三幼稚園	7/9	7/9 11/12 2/26
稲 毛 区	◎弥生小 緑町小	黒砂保育所 翠幼稚園 認可保育園みどりまち 認定こども園登戸幼稚園 認定こども園土岐幼稚園	7/1	7/18 11/21 11/27 12/3
若 葉 区	◎若松小 若松台小	若松台幼稚園 みのり幼稚園 若竹保育園	7/10	11/13 12/6
緑 区	◎土気小 あすみが丘小	土気中央幼稚園 あすみ中央幼稚園 ナーセリー鏡戸 明德土気こども園	9/24 9/26	11/1, 5 12/4, 6 12/13, 19
美 浜 区	◎高浜海浜小 磯辺小	なぎさ保育園 めぐみ幼稚園 もみじ保育園 磯辺白百合幼稚園	7/9	11/22 12/9
計	12 校	26 施設		

Ⅱ 千葉市幼・保・小・関連教育推進協議会設置の経緯

1 推進協議会設置の経緯

千葉市幼・保・小関連教育推進協議会の設置の経緯概要は以下のとおりである。

・昭和 59 年 7 月	幼・保・小についての教育懇談準備会（市教育センター） （幼・保・小の教育懇談会の運営について）
・昭和 59 年 9 月	第 1 回 教育懇談会 （幼・保・小の関連教育についての教育懇談会の在り方）
・昭和 60 年 2 月	第 2 回 教育懇談会 （小学校から見た幼・保関連教育の実態と今後の課題）
・昭和 60 年 10 月	第 3 回 教育懇談会 （幼・保・小関連教育に関する保育所の考え方）
・昭和 61 年 10 月	第 4 回 教育懇談会 （幼・保・小の関連教育についての教育懇談会の実施にむけて）

（1）昭和 61 年度までの問題点の指摘

- ①幼稚園・保育所の教育内容は、それぞれに特色があるが、未整理である。
- ②幼・保・小の交流は実施されているが限られており、実施できない理由として行事の調整・活動内容・交流する幼稚園や保育所との連携の在り方等に課題があると思われる。
- ③幼・保・小で実施する教育内容を理解しての計画的な交流が実施されていない。

（2）問題点の解決に向けた手立ての提案

- ①教育委員会に組織を作ること、交流活動を推進する。
- ②各ブロック（中学校単位）に交流組織を作ること、交流を具体化する。
- ③幼・保・小の関連についての情報を交換し、検討する推進委員会を設置する。
- ④幼・保・小の関連に伴う諸活動が、円滑に運営されるように予算措置を講ずる。

（3）昭和 63 年 6 月……幼・保・小関連教育推進協議会が設置される。

年 2 回幼・保・小関連教育推進協議会が開催される。

◇設置趣旨

- ①幼・保・小の一貫した指導により、生活・学習上の自立への基礎を養う。
- ②幼・保・小の一貫した指導により、心身共に健康で調和のとれた子供の育成を図る。

◇協議会の内容

- ①幼・保・小における指導内容に関する事項の検討をする。
- ②幼・保・小の教職員の研修に関する事項の検討をする。

2 推進指定校の経緯

昭和 63 年度から幼・保・小関連教育推進校の指定が始まり、東部・西部Ⅰ・西部Ⅱ・南部・北部の 5 ブロックそれぞれの中学校区毎に指定をした。その後、全市の小学校を指定した。平成 4 年度から千葉市が政令指定都市になり、行政区単位で推進校を指定するようになった。

【表:過去 10 年間の推進指定校（小学校）】

区 年度	中央	花見川	稲毛	若葉	緑	美浜	幼稚園	保育所園	こども園
26	仁戸名 松ヶ丘	犢橋	稲丘 稲毛	大宮台 大宮	小谷 平山	真砂西 高浜海浜	14	10	
27	大巖寺 生浜東	畑 花園	あやめ台 山王	北貝塚 小倉	泉谷 おゆみ野南	高洲 稲浜	12	13	1
28	生浜 生浜西	朝日ヶ丘 西小中台	轟町 都賀	若松台 若松	金沢 椎名	真砂東 稲毛第二	11	16	
29	登戸 院内	瑞穂 長作	緑町 弥生	白井 更科	越智 大木戸	高浜第一 幕張西	12	9	
30	弁天 新宿	花見川第三 柏井	千草台東 草野	千城台北 千城台西	誉田東 誉田	海浜打瀬 打瀬	7	11	1
R 1	星久喜 川戸	作新 花見川	千草台 宮野木	千城台南 坂月	大椎 あすみが丘	磯辺 磯辺第三	13	17	
R 2	鶴沢 本町	検見川 幕張南	小中台 園生	千城 桜木	扇田 土気南	真砂第五 幸町第三	7	17	2
R 3	都 宮崎	こてはし台 花島	あやめ台 山王	みつわ台北 みつわ台南	有吉 小谷	高洲第四 幸町	17	13	
R 4	生浜東 生浜西	幕張 上の台	稲毛 稲丘	源 都賀の台	平山 泉谷	真砂東 真砂西	12	25	1
R 5	松ヶ丘 仁戸名	さつきが丘東 さつきが丘西	都賀 千草台東	小倉 北貝塚	大木戸 越智	高洲 高洲第三	15	17	2

Ⅲ 実践報告

中央区

1 幹事校 千葉市立蘇我小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～職員同士、児童・年長児同士の相互理解を築くために～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年5月17日(金) 於：蘇我小学校
令和6年7月18日(木) 於：大森小学校
- (2) 参加者 5月17日(小学校2名 保育園、保育所8名 計10名)
蘇我小学校、今井保育園、蘇我保育所、ローゼンそが保育園、そが中央保育園
- (3) 協議内容
- ①中央区のテーマの確認・交流時期と内容の決定
 - ②1年生(卒園児たち)の様子についての情報交換(参観を含む)
 - ③スタートカリキュラムの確認と共有 ④夏の保育園(所)参観について
 - ⑤交流会についての概要説明 ⑥情報交換

3 実践事例

<実践事例1> 蘇我小学校職員による保育園(所)の参観と意見交換会

- (1) 日時・会場 7月17日(水) 9:00~12:00
於：今井保育園、蘇我保育所、ローゼン蘇我保育園、そが中央保育園
- (2) 参加者 蘇我小学校 職員24名、今井保育園 職員3名、蘇我保育所 職員2名
ローゼンそが保育園 職員2名、そが中央保育園 職員2名
- (3) 活動内容
- ①活動のねらい
 - ア 保育園の教育活動を実際に見学することで活動の様子や職員とのやり取りを小学校の指導に生かす。
 - イ 円滑な交流を進めるために、現状の課題を確認し、有意義な交流会、方法を模索する。
 - ②活動の内容
 - ア 日常の保育園の生活の様子を見学する(年長児、職員)。
 - イ 保育園のカリキュラムの共有や交流会、交流方法についての意見交換。
- (4) 成果と課題(成果○、課題●)
- 発達段階に応じた声かけや対応方法、職員の連携の仕方など、小学校の教育活動における指導の参考になった。
 - 保育園ごとに工夫があり、幅広く学ぶことができた。
 - 保育園の規模や実態が違うため、全ての意見や要望を取り入れることが難しい。



<実践事例2> 年長児と1年生の交流会「小学校ってどんなところ」 【意見交換会の様子】

- (1) 日時・会場 1月17日(金) 於：千葉市立蘇我小学校 9:45~11:15
- (2) 参加者 蘇我小学校 1年生85名 職員5名、今井保育園 年長児24名 職員3名
蘇我保育所 年長児20名 職員3名、そが中央保育園 年長児9名 職員2名
ローゼンそが保育園 年長児18名 職員2名、九重幼稚園 年長児64名 職員4名

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 1年生との交流を通して親睦を深め、小学校入学への期待を高める。
- イ 1年生 生活科の学習として交流会の企画・準備を通して自主性や協力する態度を養い、上級生になる自覚と、相手を思いやる気持ちを醸成できるようにする。

②活動の内容

生活科「もうすぐ2年生」の単元の一環として、学校の様々な場所を紹介したり、学校生活の1日の流れや、生活の様子を体験してもらったりする。

(4) 成果と課題（成果○、課題●）

- 進級に向けての期待と2年生となる自覚を深めることができた。
- 時期的に体調不良者が多く、当日（直前）にグループやペアが変更になり、混乱する場面があった。



【交流会はじめの会】

<実践事例3>年長児と1年生の交流会

(1) 日時・会場 令和6年11月28日（木）9:30～11:00 於：千葉市立大森小学校

(2) 参加者 大森小学校 1年生 91名 職員 6名 白旗保育所 年長児 36名 職員 2名
大森保育園 年長児 18名 職員 3名

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 1年生との交流を通して親睦を深め、小学校入学への期待を高める。
- イ 1年生 生活科の学習として、交流会の企画、準備をして、年長児と交流することにより、上級生としての自覚とチャレンジする勇気をもつことができるようにする。

②活動の内容

- ア 年長児を招待し、自分たちで作った秋のおもちゃで遊んでもらう。
- イ 年長児に学校内を案内する。

(4) 成果と課題（成果○、課題●）

- 1年生は、年長児と係る活動を設定したことで、主体的に活動する姿が見られた。
- 事後の活動として手紙のやり取りを行ったことで、年長児は1年生への希望と安心につながり、1年生は2年生となる自覚を高めることにつながった。
- より交流の効果を高めるためには、事前事後の活動を計画的に実施する必要がある。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 年間で計画していた交流や連携に加え、発表会に参加したり保育園の懇談会に小学校の職員が参加したりするなど、日常的に交流することができた。
- 職員同士の交流の回数を重ねてきているので、様々な角度からの交流や情報交換ができるようになってきた。
- 年長児の実態を把握することができ、次年度のスタートカリキュラムに反映することができた。

(2) 課題

- 5つの幼稚園・保育園との交流となると年長児が100人を超えるため、2回に分けて行うことも検討したい。その際、2回行うことで1年生の学習が深まることや1人の年長児に対応する1年生の人数が増えることでの安心感の向上を考慮したい。
- 距離のある幼稚園や保育園などは移動時間などもあり、日常的な交流や連携は難しいため、工夫した活動を考える必要がある。

花見川区

1 幹事校 千葉市立横戸小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～円滑な接続を実現するために、今できること～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年7月9日(火) 於：横戸小学校
- (2) 参加者 横戸小学校2名 犢橋小学校2名
こてはし台保育所1名 こてはし台幼稚園2名 まこと第三幼稚園2名
- (3) 協議内容
 - ①幼・保・こ・小関連教育推進事業の趣旨を踏まえ、花見川区のテーマについて確認
 - ②昨年度の千葉市や花見川区の実践事例、成果と課題、改善点を話し合い、今年度の活動内容を決定
 - ③小学校と幼稚園・保育所の円滑な接続に関する取組（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム作成）、疑問等について意見交換

3 実践事例

<実践報告1> 小学校・保育所職員の幼稚園参観

- (1) 令和6年11月12日(火) 10時30分～11時30分 於：まこと第三幼稚園
- (2) 参加者 横戸小学校2名 犢橋小学校1名
こてはし台保育所1名 まこと第三幼稚園1名
- (3) 活動内容
 - ①活動のねらい
幼稚園の教育活動を実際に見学することで、年長児の活動の様子や職員とのやり取り、年長児同士の関わりなどを見取り、入学後の小学校での指導に生かす。
 - ②活動内容
小学校、保育所の職員が園児の活動の様子を見学する。また、カリキュラムや指導内容について幼稚園職員の話聞く。
- (4) 成果と課題（成果○ 課題●）
○幼稚園の見学を通して、年長児への声のかけ方や活動内容を知り、幼稚園での活動について理解を深めることができ、小学校での指導の参考にすることができた。

<実践報告2> 幼稚園・保育所職員の小学校参観

- (1) 令和6年7月9日(火) 於：横戸小学校
- (2) 参加者 横戸小学校2名 犢橋小学校2名
こてはし台保育所1名 こてはし台幼稚園2名 まこと第三幼稚園2名
- (3) 活動内容
 - ①活動のねらい
小学校の生活の様子を見てもらうことにより、アプローチカリキュラム作成や、入学に向けた取り組みに生かしてもらえるようにする。

②活動内容

幼・保・こ・小関連教育推進協議会の前の時間に、幼稚園、保育所の職員が1・2年生の学習の様子を参観する。

(4) 成果と課題（成果○ 課題●）

○小学校の参観を通して、幼稚園や保育所の職員が小学校生活や学習の様子について理解を深めることができ、入学に向けた取り組みの参考にすることができた。

<実践事例3> 年長児と1・2年生との交流活動

(1) 日時・会場 令和6年2月14日（水）10時15分～11時50分

於：横戸小学校 1・2年生教室及び体育館

(2) 参加者 横戸小学校1年生児童21名、2年生児童20名

まこと第三幼稚園年長児48名

(3) 活動内容

①活動のねらい

ア 次年度入学する地域の入学予定児との様々な交流活動を通して、地域を愛する心や他人を思いやる心を育む。

イ 学区幼稚園との交流を図ることを通して、入学予定児にとっても、小学校生活を不安なく始めるための一助とする。

②活動の内容

ア 小学校児童がグループに分かれて、年長児に校内を案内する。（学校探検）

イ 教室で遊ぶ。

(4) 成果と課題（成果○ 課題●）

○年長児に学校紹介をするという学習の目的が大きな意欲となり、学習や当日の準備、年長児のエスコートと意欲的に取り組んでいた。

○年長児は楽しく活動に参加することができ、就学に向けての意欲を高めることができた。



【学校探検の様子】



【算数セットのおはじきで遊ぶ様子】

4 成果と今後の課題

(1) 成果

○小学校児童と年長児が交流することにより、小学校児童は上級生としての自覚を促すことができた。また、年長児は入学前に小学校の様子を知ることができた。

○年長児の小学校入学に対する不安感を軽減することができた。

○小学校や幼稚園・保育所それぞれの生活の様子を実際に見学したり、職員同士で話し合ったりすることで、それぞれの指導や活動に生かすことができた。また、接続を意識した教育課程を編成することができるようになった。

(2) 課題

●一部の職員だけの交流になってしまう。職員の負担が大きくならないように配慮しながら、次年度以降も継続できるように、より綿密に計画を立て取り組む必要がある。

稲毛区

1 幹事校 千葉市立弥生小学校

幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して
～子供を中心に据えて今できることを～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年7月1日(月) 於：弥生小学校
- (2) 参加者 緑町小学校2名 弥生小学校2名
認定こども園登戸幼稚園1名 認定こども園土岐幼稚園1名
認可保育園みどりまち1名 翠幼稚園 1名 黒砂保育所2名
- (3) 協議内容
 - ①幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要について
 - ②稲毛区弥生小学校ブロックテーマについて
 - ③小学校区ごとの情報交換(現状と課題、取組の実施計画)

3 実践事例

<実践事例1> 小学校職員による幼稚園の参観

- (1) 日時・会場 7月18日(木) 9:00～12:30 於：認定こども園登戸幼稚園
- (2) 参加者 弥生小学校職員3名
- (3) 活動内容
 - ①活動のねらい
幼稚園の教育活動の様子や職員と子供のやり取りを見学することで、小学校での活動や指導に生かす。
 - ②活動の内容
日常の活動に取り組む年長児の様子や職員の指導を見学する。
- (4) 成果と課題(成果○ 課題●)
 - 登園してからの活動の実際を観察することができ、幼稚園教諭の声掛けの仕方やそれに応じる年長児の行動から発達段階とそれに応じた特徴を理解することができた。
 - 幼稚園職員の指導理念等について聞くことができ、小学校での指導の参考になった。
 - より多くの職員が複数日の参観を行うことで、年長児への理解が深まると思われる。

<実践事例2> 年長児と1年生の交流会「あきあそびのかい」

- (1) 日時・会場 11月21日(木) 10:25～11:30 於：弥生小学校
- (2) 参加者 弥生小(1年22名 職員3名) 翠幼稚園(年長児10名 職員3名)
- (3) 活動内容
 - ①活動のねらい
「あきあそび」の会を通して、次年度入学予定の年長児と1年生の交流を深める。
 - ②活動の内容
1年生が生活科で学習した「あきあそび」の会に年長児を招待し、一緒に遊ぶ。
- (4) 成果と課題(成果○ 課題●)
 - 年長児に楽しんでもらうことを学習のゴールとし、1年生は意欲的に準備や当日の運営に取り組んでいた。
 - 訪問する幼稚園側のニーズにも応えられるような活動を計画することも大切である。

<実践事例3> 年長児と5年生の交流会

(1) 日時・会場 11月27日(水) 10:25~11:30 於: 弥生小学校

(2) 参加者 登戸幼稚園(年長児30名 職員3名) 弥生小(5年28名 職員3名)

(3) 活動内容

①活動のねらい

ア 年長児と交流する活動を通して、上級生としての意識を高める。(5年生)

イ 小学校生活について理解したり、小学生と交流したりすることで、小学校入学への意欲を高める。(年長児)



【年長児と5年生の交流会の様子】

②活動の内容

小学校生活や校舎などを紹介したり、運動場で一緒に遊んだりする。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○年長児に楽しんでもらえるよう、5年生が自発的に様々な活動を工夫する姿が見られた。4月から最上級生になるという意識を、5年生段階から芽生えさせることは有意義であったと思われる。

●一つの園だけでなく、他の園との交流方法についても検討していく必要がある。

<実践事例4> 年長児との交流会「なかよし会」(緑町小学区)

(1) 日時・会場 12月3日(火) 9:45~11:30 於: 緑町小学校

(2) 参加者 緑町小(1年93名 職員3名)、黒砂保育所(年長児15名 職員3名)
翠幼稚園(年長児12名 職員3名)、認可保育園みどりまち(年長児4名 職員2名)
認定こども園土岐幼稚園(年長児26名 職員3名)

(3) 活動内容

①活動のねらい

年長児と適切に関わり、一緒に遊びたいという願いをもち、進んで触れ合って交流することができるようにする。

②活動の内容

ア 年長児を迎え、校歌を歌ったり、学校紹介をしたりする。

イ 「あきのおもちゃまつり」を年長児と一緒に楽しむ。

ウ 年長児を見送り、片付けをする。



【「なかよし会」の様子】

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○1年生が準備をした遊びを年長児に楽しんでもらえたことで、達成感や自信をもつことができた。

●遊ぶときには、グループではなくペアで回った方が年長児とより関わることができた。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

○交流活動を行うことで普段関わることの少ない関係機関との相互理解を進めることができ、次年度の教育課程編成の参考になるなど非常に有意義であった。

○年長児との係りを通して、小学生(1年生、5年生)は次年度への期待をもつとともに、自覚を深めることができた。

(2) 課題

●幼・保・こ・小の望ましい連携や理解のためには、一部の職員だけでなく、どの職員も交流に参加できる機会を計画していく必要がある。

若葉区

1 幹事校 千葉市立若松小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～持続可能な交流活動を通して～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年7月10日(水) 於：若松小学校
(2) 参加者 若松小学校2名 若松台小学校2名 みのり幼稚園2名
若松台幼稚園2名 若竹保育園1名

(3) 協議内容

- ①幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要についての共通理解
- ②今年度のテーマについての確認
- ③これまでの交流活動と今年度の交流活動の内容について
- ④参加した小学校・幼稚園・保育園の現状について
- ⑤持続可能な連携の方法についての意見交換

3 実践事例

<実践事例1> 秋まつり交流会(年長児と1年生の交流会)

- (1) 日時・会場 12月6日(金) 於：若松小学校
10:00～11:30 13:10～14:10
(2) 参加者 若松小学校1年生(児童 95人 職員5人)
若竹保育園(年長児32人 職員5人)
みのり幼稚園(年長児69人 職員4人)
若松台幼稚園(年長児32人 職員4人)



【「学校案内」の様子】

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 年長児と一緒に遊んだり、学校を案内したりする活動を通して、上級生になる自覚をもち、自尊心や達成感を高める。
- イ 生活科「きせつとなかよし」の学習として、交流会の企画や準備を行う活動を通して、自主性や皆と協力する態度を養う。
- ウ 1年生との交流活動を通して、小学校へ入学する期待を膨らませる。
- エ 年齢の近い1年生と交流することで、相手への思いやりや協力することの大切さを学び、社会性や協調性を育む。

②活動の内容

- ア はじめの会・みんなで歌おう「さんぽ」
- イ 学校案内
- ウ 秋あそび
- エ おわりの会・年長児からの感想発表



【「秋あそび」の様子】

(4) 成果と課題(成果○、課題●)

- 1年生の児童と年長児が交流活動を通して、互いの親睦を深めることができた。
○年長児は1年生の児童に対する憧れの気持ちをもち、1年生の児童は来年入学する年長児に対して優しく接したり、話しかけたりしている場面が見られた。楽しく交流することを通して、互いの成長につなげることができた。

- 1年生に学校を案内してもらいながら、学校の施設や小学校での生活の様子を見ることで入学前に小学校の雰囲気を感じることができた。
- 幼稚園や保育園の職員に小学校の学習活動を参観してもらったことで、小学校への接続期におけるカリキュラムや活動内容を理解してもらう機会となった。
- 年長児の人数が多く、午前と午後の2部制にしたが、時間の関係上、全ての遊びを経験できない年長児の姿が見られた。参加人数に合った遊びの場や活動の工夫が必要だった。
- 生活科の学習の一環として交流会を企画したが、学習の時期と交流会の時期がずれてしまったので、来年度は学習と交流会の時期を合わせられるようにしたい。

<実践事例2> 幼稚園教育研究会参観

(1) 日時・会場 11月13(水) 於：みのり幼稚園 9:00~12:40

(2) 参加者 若松小学校 校長 教務主任

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 研究会に参加し、幼稚園の教育活動や指導・支援の様子を見学することで、小学校入学前の子供の実態を把握したり、教育環境を理解したりする。
- イ 幼稚園の年間指導計画を基に、次年度の小学校でのスタートカリキュラムに生かす。
- ウ 次年度に自校に入学する年長児の実態を把握する。

②活動の内容

- ア 公開保育における活動の様子を見学する。
- イ 幼稚園の職員との情報交換を行う。
- ウ 協議会に参加し、園の研究概要を理解する。

(4) 成果と課題(成果○、課題●)

- 入学前に年長児の実態や教育環境を把握することができた。
- 発達段階に合った声かけや指導の仕方を学ぶことができた。
- 入学予定児の様子を参観したり、幼稚園の職員から情報を得たりすることで、スタートカリキュラムや学級編制に生かすことができた。
- 発達に特性をもつ子供や個別の支援が必要な子供などについての情報を共有したことで、入学前にその子供たちに対する支援体制を円滑に進めることができた。
- 日程や時間的な関係で、小学校の学級担任が公開保育を参観することができなかった。長期休業の時間を活用するなどの工夫が必要であった。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- コロナ禍で交流会ができなかったが、今年コロナ前に近い形で幼・保・小の交流会を実施した。来年度以降にもつながる、持続可能な交流会の基盤を構築することができた。
- 年長児にとっては、小学校生活への期待感や興味関心を高め、入学への不安を軽減することができた。
- 1年生は交流を通し、自らの成長を自覚化し、自信や自立心を育むことにつながった。

(2) 課題

- お互いの立場や専門性を共有しながら情報交換をしたり、子供の様子を相互に参観したりする機会を設定する必要がある。
- 日常的に交流ができるように様々な交流方法を検討する必要がある。

緑区

1 幹事校 千葉市立土気小学校

幼・保・こ・小の持続可能な交流と連携を目指して
～円滑な接続を実現するために、子ども同士の交流を通して～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年9月24日(火) 於：土気小学校
令和6年9月26日(木) 於：あすみが丘小学校
- (2) 参加者 9月24日(土気小1名・土気中央幼稚園1名・明德土気こども園1名)
9月26日(あすみが丘小3名・あすみが丘中央幼稚園1名)
- (3) 協議内容
- ①方針の確認、本年度のテーマについて
 - ②活動内容について
 - ア 児童と年長児の交流
 - ・明德土気こども園児による手紙のお届け・小学校内見学
 - ・「生活科おもちや発表会」「幼保小こ交流会」への参加
 - ・入学に向けた学校訪問・校内紹介等
 - イ 職員間の交流
 - ・幼稚園・保育園職員対象の小学校生活科の学習参観
 - ・小学校教諭対象の幼稚園保育参観
 - ③入学接続時に各学校・各園・各所で取り組んでいること、交流活動
 - ④情報交換

3 実践事例

<実践事例1>園児による手紙のお届け・小学校内見学

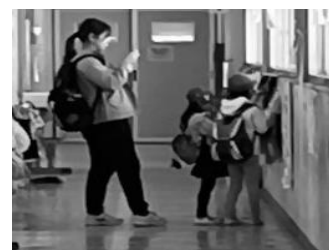
- (1) 日時・会場 毎月1回 於：土気小学校・あすみが丘小学校
- (2) 参加者 明德土気こども園(年長児2～3名・職員1名)
- (3) 活動内容

①活動のねらい

学校職員に挨拶し、校内を見学することで、小学校生活に期待と意欲を深める。(年長児)

②活動の内容

- ア 年長児小学校の職員に挨拶し、手紙(園だより)を渡す。
- イ こども園職員が引率しながら、小学校内を見学して回る。



【「小学校見学」の様子】

(4) 成果と課題(成果○、課題●)

○年長児は、活動を通して小学校を身近に感じる事ができた。また、幼児教育施設職員が小学校の様子を知ることができ、接続を意識できるようになった。

<実践事例2>幼保小交流会への参加

(1) 日時・会場・参加者

土気小(1年生48名、職員3名)	
12月4日(水)(10:00～11:00)	12月6日(金)(10:00～11:00)
明德土気こども園(年長児32名、職員4名)	土気中央幼稚園(年長児58名、職員5名)
AIAI ナーサリー土気(年長児11名、職員2名)	

あすみが丘小（1年生98名、職員6名）	
12月13日（金）（10:30～11:30）	12月19日（木）（10:30～11:30）
土気中央幼稚園（年長児58名、職員5名）	あすみ中央幼稚園（年長児38名、職員4名） ナーセリー鏡戸（年長児24名、職員4名）

（2）活動内容

①活動のねらい

- ア 1年生と交流を深めることで、小学校生活に期待と意欲を深める。（年長児）
- イ 秋の遊びや昔遊びを楽しんでもらえるように積極的に声をかけるとともに、思いやりをもって関わろうとする。（1年生）

②活動の内容

- ア 秋のおもちゃ遊び（土気）
- イ 学校探検・昔遊び（あすみが丘）

（3）成果と課題（成果○、課題●）

- 1年生は普段上級生から教えてもらうことが多いが、交流会では年長児のことを考え行動する態度を養い、来年度入学してくる児童を迎える喜びを感じていた。



【「昔遊び」の様子】

- 年長児は、活動を通して小学校生活への期待を高めることができた。

<実践事例3> 小学校参観（職員対象）

（1）日時・会場 11月1日（金）・5日（火） 於：あすみが丘小学校

（2）参加者 11月1日（金） ナーセリー鏡戸（職員2名）
11月5日（火） あすみ中央幼稚園（職員2名）

（3）活動内容

①活動のねらい

- ア 近隣の幼稚園教諭、保育士が1年生の学習や生活の様子を知る機会とする。
- イ 就学に向けて幼稚園・保育園の活動と、小学校生活が円滑に接続できるように年長児が身に付けていくべきことを把握し、卒業を控えた年長児の指導の参考にする。

②活動の内容

- ア スタートカリキュラムの確認
- イ 1年生授業参観：1年1組・2組・3組の授業を参観

（4）成果と課題

- 1年生の学校生活を参観することで、年長児の1年間の成長を知るよい機会となった。
- 1年生学級担任との情報交換はできなかったが、スタートカリキュラムの内容を確認することで入学前に必要な準備などについて共通理解することができた。
- より小学校生活への理解が深まるよう、休み時間や給食の様子などの参観も検討したい。

4 成果と今後の課題

（1）成果

- 日常的な交流と1年生の表現活動での交流を通して、年長児は小学校への親しみを深めることができた。また、1年生は年長児との関わりを通して、2年生となる自覚をもつきっかけとなった。1年生、年長児共に次年度へ期待をもつことにつながった。
- 教職員の交流を通して、互いの教育内容についての理解が深まり、次年度の教育課程に生かすことができた。

（2）課題

- 幼児教育施設職員の小学校参観は実施できたが、小学校職員の幼児教育施設参観を実施できなかった。それぞれの日課時程が異なるため、学習参観の日程を合わせるのが難しい。次年度、相互参観の実施に向けて計画をしていきたい。

美浜区

1 幹事校 千葉市立高浜海浜小学校

幼・保・こ・小の望ましい連携と交流を目指して
～子供たちのウェルビーイングのために～

2 協議会

- (1) 日時・会場 令和6年7月9日(火) 於：千葉市立高浜海浜小学校
(2) 参加者 高浜海浜小学校2名 磯辺小学校2名
なぎさ保育園1名 もみじ保育園1名
(3) 協議内容
①関連教育の趣旨と概要についての共通理解(テーマの決定)
②連携の現状と課題について
③今年度の取り組みと実施計画
④接続期カリキュラムによる連携
⑤家庭、保護者との連携
⑥令和6年度報告書の作成について 等

3 実践事例

<実践事例1>

- (1) 日時・会場 令和6年11月22日(金) 於：高浜海浜小学校体育館

(2) 参加者

高浜海浜小	1年生30名	職員4名
めぐみ幼稚園	年長児51名	職員5名
なぎさ保育園	年長児20名	職員3名

(3) 活動の内容

①活動のねらい

ア 生活科の学習で作成したおもちゃの遊び方を

年長児に教える活動を通して、自分の学びを深める。

イ 年長児との触れ合いを通して、自身の成長を実感する。 【年長児があそぶ様子】



②活動の内容

1年生が生活科の学習でどんぐりやまつぼっくりで作成し、おもちゃ別のワークショップを設置、年長児に遊び方を説明したり、楽しく遊んでもらえるように工夫したりした。

(4) 成果(成果○ 課題●)

○年長児に楽しんでもらうという目標を設定して学習を進めることで、ねらいを明確にして取り組む姿が見られた。

●企画から、実施後を通して、小学校と幼保の職員同士で意見交換をする機会を持っていないので、職員間での打ち合わせが必要であった。

<実践事例2>

- (1) 日時・会場 令和6年12月9日(月) 於：磯辺小学校体育館

(2) 参加者

磯辺小学校	1年生80名	職員4名
もみじ保育園	年長児30名	職員3名
磯辺白百合幼稚園	年長児48名	職員3名

(3) 活動の内容

①活動のねらい

- ア 1年生との交流活動を通して、小学校の様子を感じることができる。(年長児)
- イ 自己紹介や年長児と一緒に遊ぶ活動を通して、相手意識をもち年長児と積極的に関わることができる(1年生)。

②活動の内容

ア はじめの会

はじめの言葉、磯辺小教務主任の話、1年生のあいさつ(遊びの紹介)、園児・児童ペアの決定(自己紹介・握手)。

イ 「みんなであきをたのしもう」

児童・年長児がペアとなって一緒に行動し、児童が年長児をサポートした。1年生が公園で見つけた様々な秋のもの(どんぐり、まつぼっくり、落ち葉など)を使って作った遊びの遊び方を説明したり、ペアと一緒におもちゃ作りを体験したりした。

ウ 終わりの会

活動をふりかえって(1年生の感想)、保育園、幼稚園の先生方の話、終わりの言葉

(4) 成果(成果○ 課題●)

- 年長児は活動を通して、小学校生活の見通しをもつと共に、入学への期待を高めることができた。
- 1年生は、年長児との係りを通して、自分自身の成長に気付くことができた。また、相手に合わせた行動や伝え方を考えることができた。
- 活動の趣旨をふまえ、より連携した活動となるように小学校と保育園・幼稚園相互の情報交換に努めたい。今後の活動内容や時期などを検討して、有意義な取組にしていけることが望ましい。



【1年生と年長児がペアであそぶ様子】

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 交流に向けた協議会を通して、これまでの連携の在り方を見直すとともに年間の見通しをもって、計画的に活動することができた。
- 年長児と1年生が交流することにより、来年度入学を迎える年長児や幼児教育施設職員の不安感を軽減し、入学の期待感を高めることができた。
- 小学校職員が年長児の活動する様子を観察したことで実態を把握することができ、次年度のスタートカリキュラムに反映することができた。

(2) 課題

- 年長児が、より小学校生活への安心感や期待感を高める手立てとして、入学後に関わる機会の多い児童(現5年生)と交流する機会を設定するなど、学校全体で交流方法について検討する必要がある。
- 交流活動を充実させるためには、小学校と幼児教育施設の職員の連携が重要である。職員の負担とならないよう留意しながら、ねらいを明確にして交流活動を計画する必要がある。

Ⅳ 令和6年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の成果と課題

1 成果

(1) 交流活動のメリットの整理

本年度は、交流活動後の様子や振り返りから、年長児、児童、教職員のメリットについて具体的に整理することができた。

年 長 児	○年長児は、小学校での交流活動を通して、小学校への親しみをもつことができた。 ・1年生の学習や生活に体験的に触れることで、小学校生活への見通しをもつとともに、小学校への憧れや機体を高めることができた。 ・小学校のトイレや教室など施設の様子を知ること、不安感の軽減につながった。 ・1年生や5年生など児童との触れ合いを通して、優しくしてもらった経験から不安感を軽減し、進学への期待を高めることができた。 ・小学校の先生と直接触れ合ったり様子を見たりすることで、小学校の先生に対する不安感を軽減することができた。
児 童	・自分の成長を実感する機会となり、進級することへの期待感をもったり、上級生となる自覚を高めたりすることにつながった。 ・年長児を対象とした表現活動を行ったことで、主体的に活動に取り組むとともに、自己有用感を深めたり、自立心を育むことにつながったりした。
教 職 員	・子どもの実態把握につながった。 ・互いの教育内容についての理解が深まり、教育課程に生かすことができた。 ・日常的に関わる交流活動へと広がった。

(2) 職員同士の交流推進に伴う交流の日常化と今後の交流活動充実に向けた可能性の示唆

相互参観や意見交換会など職員同士の交流の機会を設定したことで、交流の場面が多様化し、活発になった。職員同士が主体的に互いの施設を参観することも多くなり、発表会や懇談会へ参加するなど交流場面も多様化した。また、協議会等での計画以外でも、互いに連絡を取りながら小学校への散歩など日常的な交流や手紙のやり取り、アサガオのプレゼントなど豊かな交流活動にも広がった。このことから、日常的な交流活動が計画されることで、様々な学習へと広がっていくことが考えられる。例えば、上述の手紙のやり取りは、国語科の学習となるなど、様々な学年、教科において交流活動を効果的に活用することが考えられる。小学校においては、交流のための活動だけではなく、学習効果をねらった交流について検討して欲しい。

2 今後の課題

(1) 学校全体での交流活動への参加

1学年教職員等、一部の職員のみには負担が大きくなる交流活動は継続した活動となりづらい。また、幼児教育から小学校へとスムーズに接続するためには、小学校職員全員が幼児教育への理解を深める必要がある。本年度の実践では、1年生と年長児の交流が多く報告されたが、多様な交流方法、交流対象を設定することで、より年長児の安心感を高めることにつながると考える。例えば、年長児の日常的な校内探検の取組では、年長児が多くの対象と関わることが予想される。探検する中で、多くの学年の児童や教職員と触れ合うことで、年長

児は学校への安心感、親しみを深めていく。また、日常的に年長児がやってくることは、教科学習への効果も期待できるとともに、環境の整備の面からも児童の清掃活動や委員会活動の充実につなげることもできる。そこで重要となるのが教職員の幼児教育への理解である。まずは、管理職や主幹教諭が互いの行事や学習参観の交流からはじめ、職員全体へと広げていきたい。その際、個別最適な学習や自由進度学習の推進に向けた参考として、また指導力向上、教科横断的視点など、職員の必要感から主体的な交流活動へとつなげていきたい。

＜表 1＞工夫した交流活動の実践取集と整理

教科等	活動内容	交流の対象（主◎、副○）			
		子ども同士	子どもと教員	教員同士	子どもと施設
生活科	生活科表現活動での交流 （事例）「がっこうとなかよし」「あきと あそぼう」 「もうすぐ 2 年生」	◎	○	○	◎
生活科	体験活動への年長児の参加 （事例）トウモロコシの皮むき体験	◎	○	○	○
特別活動	行事の交流活動 （事例）「なかよくなる会」「なかよくあそぶ会」	◎	○	○	○
特別活動	学級活動（2）との関連（事例）給食の様子	○	—	○	◎
行事	合同避難訓練	◎	◎	◎	◎
行事	異学年交流（事例）縦割り活動への年長児の参加	◎	◎	○	○
その他	公開研究会参観（教育研究会参観）	—	○	◎	—
その他	幼稚園運動会参観	—	◎	○	—
その他	小学校参観 ＊協議会当日に実施も可能	—	◎	○	—
その他	幼児教育施設の参観 （例）教務主任等、	—	◎	◎	—
その他	学校施設の開放 （例）散歩コースに設定、トイレや遊具の利用	○	○	○	◎
その他	職員研修（R6 中央区実践事例 1） 「保育所参観および意見交換会」（夏休みに実施）	—	○	◎	—
その他	小学校探検＆手紙の交流（R6 緑区実践事例 1） ＊月 1 回程度の学校探検	○	○	○	◎
その他	交流給食…年長児が小学校で給食を食べる活動	◎	◎	◎	◎

3 令和 7 年度の推進指定校

○は幹事校

行政区	中 央 区	花 見 川 区	稲 毛 区	若 葉 区	緑 区	美 浜 区	計 12 校
推 進	○ 寒 川 小	○ 畑 小	○ 小中台南小	○ 千城台東小	○ 椎 名 小	○ 稲毛第二小	
指定校	新 宿 小	瑞 穂 小	小中台小	千城台みらい小	扇 田 小	真砂第五小	

V 令和6年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会委員一覧

1 協議会委員

№	氏 名	所 属	職 名	備 考
1	阿部 直美	新宿保育所	主幹所長	千葉市保育所長会議長
2	大森 康雄	今井保育園	副園長	千葉市民間保育園協議会会長
3	岸 憲秀	羔幼稚園	園 長	千葉市幼稚園協会会長
4	今福 教子	千葉市立弥生小学校	校 長	校長会幼・保・小関連教育推進協議会 担当者
5	上田 昌宏	幼児教育保育部幼保支援課	課 長	こども未来局関係委員
6	渡邊かおり	幼児教育保育部幼保指導課	保育所指導 担当課長	こども未来局関係委員
7	八斗 孝之	学校教育部教育指導課	課 長	市教育委員会関係委員

2 推進指定校における幹事校長

区 名	学 校 名	校 長 名	区 名	学 校 名	校 長 名
中 央	蘇我小学校	安井 忍	若 葉	若松小学校	佐藤 素子
花見川	横戸小学校	平木 恵子	緑	土気小学校	中村 佳仁
稲 毛	弥生小学校	今福 教子	美 浜	高浜海浜小学校	前田 知美

3 事務局

金坂 宜郎	学校教育部教育改革推進課	指導主事
-------	--------------	------